Education magazine（尾花沢市教育委員会通信）

輝け！おばねっ子

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

第３２号
令和６年９月30日
※毎週月曜日発行予定です

これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただくことができます

「少年の主張大会」市内中学生の主張内容紹介②

県少年の主張大会（尾花沢大石田地区）に出場した、尾花沢中学校２年の加藤美結さんの内容を紹介します。

■「差別のない世界」

連日パリオリンピックでの日本選手の活躍が報道されました。たくさんの名場面の中で、特に心に残ったのは、体操男子団体の決勝戦です。日本は、中国、ウクライナ、アメリカに続く４位から２位まで追い上げ、最終種目・鉄棒の演技は、中国と日本が金メダルを争う展開になりました。一つのミスでメダルの色が変わってしまう緊張の場面で、日本の最終演技者は橋本選手。高難度の技を次々と決めます。着地を止めた瞬間、会場は大きな拍手と歓声に包まれ、橋本選手も会心のガッツポーズでした。そして、興奮を収めるようなジェスチャーで歓声を静め、演技のコールを待つ中国選手に歩み寄り励ますように肩をたたいたのです。二人は笑顔で握手を交わしていました。

中国と日本は、領土問題など難しい部分を抱えています。でも、スポーツの世界では、国を超えて応援したり称え合ったりする場面に心を打たれました。オリンピックは、国籍や人種を超えたフェアプレイとリスペクトの美しい場面をたくさん見せてくれました。

けれども、世界を見渡せば、本当に戦争がなくなったわけではありません。人の心を傷つける差別もあります。日本でも、障害を持っている子供が学童保育への受け入れを拒否されたり、仕事をする上で女性が不利であったり…。

私は差別されたことはありませんが、もともと明るい髪の色を「染めた？」と聞かれることがあります。たまに、からかわれたような気持ちになります。周りと違うことが偏見や差別の原因になると感じます。

人は、自分と違うものに警戒心を抱いてしまいます。だから、気を付けないと多数派が少数派を差別する危険性があるのです。

偏見や差別が人を傷つけ、争いのもとになり、デメリットしかないことは、みんなが知っています。

どうすれば、なくすことができるのか。そのヒントが、オリンピックにあったと思います。

観客も選手も、一人ひとりのがんばる姿に声援を送っていました。努力してきたこと、真剣な姿に拍手を送らずにいられない。勝利を目指す思いが分かるからこそ、勝っても負けても健闘をたたえ合うことができるのです。

同じことは、学校生活の中にもありました。優勝と応援賞を目指して戦った春季大運動会。応援練習、看板作成、競技練習…。それぞれの力を生かして、精一杯取り組む中で育っていった連帯感。勝った喜び、負けた悔しさ。私たちが仲間だと思えたのは、思いを共有し努力を認め合えたからだと思います。

人種・性別・宗教・能力…。私たちはみんな違います。そこに優劣をつけたり否定したりするのではなく、一人ひとりの行動や思いに目を向け、分かり合えるところを見つけようとすれば、違いを超えて仲間になることができると思うのです。

差別のない世界を実現するために、私たちにできることは、人を外側で判断せず中身を見ることです。私も、みんなが生きやすい社会、笑顔で暮らせる社会の一員として、周りの人の努力や思いに気付ける人になろうと思います。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長　工　藤　雅　史
ＴＥＬ　２３－３３３０